

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		春日市療育訓練施設 くれよんクラブ		公表日		R8年 4月 1日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	22	2	時間調整を継続します。校庭や公園など別の場所も活用します。	日時によって部屋が不足する場合があります。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	23	1	基準は満たしています。令和8年度から、保育士の予約療育により、専門療育の補填も行います。	年度により専門士の利用枠が利用者のニーズに対して足りない場合があります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	24	0	各部屋に合わせて常に構造化を意識しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	24	0	毎日ヒヤリ・ハットの中で確認しています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	24	0	1部屋は使えるように工夫しています。	日時によって部屋が不足する場合があります。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	24	0	短時間でも意見交換をする機会を作っています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	24	0	保護者等の意向把握に努め、適宜ミーティングを行っています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	24	0	職員の意向把握に努め、必要時は個別に聞き取りを行い、業務改善に努めています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	18	6	事業所評価の結果をもとに改善に努めています。また、関係所管、関係機関と連携し、業務改善に努めています。	外部評価は必要と考えていますので公的機関としての方法を研究します。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	24	0	外部研修だけでなく、内部研修の充実に努めます。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	24	0	支援プログラムはホームページの掲載の他、廊下や訓練室に掲示しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	24	0	行動観察や発達検査等を行い、保護者のニーズをふまえて作成しています。また、支援計画書について随時関係職員で課題を共有しています。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	24	0	個別支援について関係職員で原案会議を行い、共通理解を図っています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	24	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	24	0	標準化されたものと、簡易版のアセスメントツールを用いて評価を行っています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	24	0	お子さんの状態と課題を把握し、保護者のニーズに基づき、ガイドラインで項目を確認し、支援内容の計画を立案しています。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	24	0	スタッフ間の情報共有を頻回に行っています。		

ハ	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	24	0	発達状況により、繰り返しが必要なプログラムもありますが、興味の幅を広げ、自己決定し活動できる内容を工夫しています。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	24	0	集団活動の場合でも、個別活動の時間を取り入れています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	24	0	療育前に行うようにしていますが、時間の使い方を工夫し、療育準備と並行して打ち合わせを行います。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	24	0	療育直後に必ず振り返りをするをルーティーン化し、共有しています。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	24	0	領域別に記録を作成し、ガイドラインを理解することを意識しています。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	24	0	定期的なモニタリングで、状況を把握し、見直しを行っています。	
	関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	24	0	子どもの状況を把握している職員が担当者会議に出席しています。また、保護者同意の上、書面で連絡をする場合もあります。
25		地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	24	0	日常的に連携を意識して支援を行っています。	
26		併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	24	0	インクルージョンを意識し、地域や家庭生活に汎化する支援を行っています。必要に応じて園訪問や園の相談にのっています。	
27		就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	24	0	こども発達支援室と連携をとり、保護者のニーズに応じて連絡会を設け、就学先と情報共有を行っています。加えてふくおかサポートノート（シート）作成の保護者支援を行っています。	
28		(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
29		質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30		(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
31		(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	24	0		
32		保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	24	0	地域との接点が少ない児童（未就園児）は、集団療育の中で公立保育所と定期的に交流をしています。また、園外保育も実施し、公園や施設に出かけ、地域の子どもと接する機会を作っています。	
33		日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	24	0	親子通所のため、療育場面で随時共通理解に努めています。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	24	0	ペアレント・トレーニング、及びペアレント・プログラムの研修を行っています。また、サポートシート作成のための年長児保護者対象の学習会や、集団療育対象時の保護者学習会を定期的に行い、加えて館内掲示で療育についての情報提供をしています。		

保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	24	0	理解しやすい言葉を選び、説明に努めています。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	24	0		
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	24	0		
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	24	0	担当からの助言が難しい場合には、児童発達支援管理責任者や専門士と支援方法や助言内容についてケース検討を行っています。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	17	7	保護者会はありませんが、保護者学習会の時間を利用して交流の場を作っています。集団療育では、療育後に保護者同士で話せる時間を作っています。また、ペアレント・プログラムやペアレント・トレーニングを実施することで、交流の機会になっています。	きょうだい児の交流の場や保護者会については、適切な方法が見つかっていません。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	24	0		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	24	0	集団療育では活動予定などお便りを配布しています。また、廊下の掲示物で活動概要や連絡体制などの情報を発信しています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	24	0	各々が常に意識を持ち、注意を払い、取り扱っています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	24	0	聴覚や視覚支援を用いるなど、個別にコミュニケーション支援に配慮しています。	
44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	24	0	福祉と子育て、健康をテーマとした市・社会福祉協議会共催のフェスタ（年1回）で、施設開放をしています。また、見学の申し出があれば、適宜対応しています。		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	24	0	マニュアルは館内にファイルを設置し、利用者がいつでも見られるようにしています。また感染症等の実地訓練を行っています。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	24	0	春日市の業務継続計画を基に施設に合わせて策定しています。また毎月いろいろな場合を想定し、訓練を行っています。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	24	0	初回面談で把握し、適宜確認を行っています。また緊急体制を整えています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	22	2	食事提供を行っていないため指示書の対応はしていませんが、初回面談時に必要な情報を把握しています。おやつ場面や食事指導では、保護者同伴で療育を行っており、療育中に使用する教材や食品は毎回保護者に確認を行っています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	24	0	安全計画を作成し、職員全体で研修を行っています。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	24	0		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	24	0	毎日の終礼時にヒヤリハットを確認し事故を防ぐ具体的な行動を、職員で共有しています。	
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	24	0	児童虐待防止に関する研修を実施しています。また、日常的に関係所管と連携しています。		

	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	24	0	親子通所の施設であるため、身体拘束は想定していません。必要がある場合は、その場で保護者に確認し対応します。また、身体拘束に至る手前の手立てを意識して支援を行っているため、拘束を必要とする場面はありません。	
--	----	--	----	---	--	--